

②セルフプロデュース型インターンシップ（7月～9月）

今年度も生徒の進路希望に添い、就職希望者はオファーをいただいた地元企業でのインターンシップを、進学希望者は大学・短大・専門学校で開催されるオープンキャンパスに参加という形で実施した。7月は順調に行えたが、8月に入り新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオープンキャンパスの中止が増え、下旬に予定していた地元企業へのインターンシップも中止になった。

【受入事業所名】

(株)三ツ知製作所 名阪真空工業(株) (有)上野屋 松阪飯南森林組合
(有)深緑茶房 花の丘病院 中央土木(株) 飯高駅 保育園

【インターンシップの様子】



9月の緊急事態宣言下での在宅学習期間を経て、10月になりセルフプロデュース型インターンシップ発表会を実施した。実施にあたりインターンシップが中止になった生徒は「ファシリテーター」として携わることにし、他の生徒がまとめを行っている時間を使い少しでもファシリテーターとして活躍できるよう、「ファシリテーター養成講座」を行った。

③「高校生と地元企業との交流会」（12月）

三重県商工会連合会が主催する、地元企業との交流会に2年次生全員が参加した。昨年度はこの会がきっかけで進路決定をした生徒が多くいた。まだまだ地元の飯南・飯高地域へ就職を希望する生徒は多くはないが、1年次「産業社会と人間」でのフィールドワークでお世話になった企業に、就職という視点からあらためて興味がわき、交流を希望する生徒も多くいた。参加企業は、様々な地域、様々な規模、特色があり、単なる企業選びだけでなく、地域の比較や企業からの魅力発見にも繋がる可能性を含んでいる。



会場の本校体育館には19社の企業担当者が各ブースを作り、一回あたり15分で計5回の交流を行った。生徒は事前に交流希望企業を選び、各自のプログラムを組んで交流した。

コロナの影響も2年目になり、各事業所がタブレットや動画などを使ってわかりやすく生徒にプレゼンしている様子が印象的であった。また今年度も、昨年度の様子を見た連携中学校校長より強い希望があり、中学2年生も参加し高校生と一緒に交流した。

事後の生徒アンケートでの感想は、ほぼ全員が「良かった」と回答し、感想では「わかりやすかった」、「就職の幅が広がった」だけでなく、「豊栄工業さんの自分の好きなことは、自分にとって必要なものという言葉がよかった」など、詳しく感想を述べる生徒もいた。

生徒が興味の沸いた企業については、昨年度は小規模企業の若い経営者本人が語る言葉に魅力を感じた生徒が多くいた傾向にあったが、今年度はその傾向はゆるみ、安定志向で万協製薬や三ツ知製作所など卒業生が就職し、馴染みのある企業が多く生徒を惹きつけていた。

また、生徒による企業選びの基準の上位は、「職場の雰囲気」、「業務内容」、「給料」で昨年度と変化はなかった。



主催：松阪香肌商工会、松阪北部商工会、多気町商工会、明和町商工会、三重県商工会連合会

【参加事業所名】

(有)寿総合食品 (有)野瀬商店 進栄電子(株) (株)松本組 (有)上野屋
 三重金属工業(株) 松阪飯南森林組合 豊栄工業(株) 茶来まつさか(株)
 (株)飯高駅 (株)三ツ知製作所 (有)深緑茶房 (有)長井米生活農場
 万協製薬(株) (株)タキ (株)希塗装 松阪興産(株) ポーラ美南グランドグループ
 (株)ライジング 明和工場

④「本気の大人」講演会（2月）

「本気の大人」講演会は、地域の企業人、「本気の大人」との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える態度を育てるねらいがある。

2月上旬には有限会社上野屋の佐々木幸太郎氏より、過疎化の地域で個人事業主でも考え方次第ではワールドワイドに事業を展開できることの楽しさや、新しい商品開発など3年次「いいなんゼミ」に繋がる講演を聴いた。



「考え方や発想で大きく変わることを学んだ」、「都会に出なくてもやり方ひとつで事業が展開できることが分かった」など、生徒の今後に大きく影響を与える内容であった。

(4) 検証

年度当初は計画通り順調に実施できたが、夏季休業中の新型コロナウイルス感染症拡大に始まり9月の在宅学習期間（休校）、1月以降の感染再拡大と、全体を振り返ると順調と言えるものではなかった。しかし、中止にすることは簡単だが、学年団としてできるだけ中止にせず規模の縮小や内容の再編成、実施時期の延期など臨機応変に対応した。

例年の3学期から1学期に移行したプレいいなんゼミは良かったと考える。その理由は、1年次3学期に実施した「かけ算プロジェクト」で研究するためのステップを学んでいるので、時間を空けず自分の興味・関心に合わせた調査研究へと繋げたことで、生徒の意識も高い状態が保てた。一方、3年次の「いいなんゼミにつながる」という視点においては、反対に時間が空いてしまうのもう一工夫が必要だと感じた（今年度は3学期に時間をかけてテーマ設定を行った）。

8月に実施したセルフプロデュース型インターンシップでは、興味・関心を持っていることに対し、自らの力で職場体験などのインターンシップを計画・立案して実施することにより、生徒の学ぶ意欲を大切にし、一人ひとりの力を伸ばす支援に繋がった。しかし、感染拡大の影響で実施できなかつた生徒が複数名出た。そこで、これを機に以前から取り入れてみたいと考えていた「ファシリテーター」を導入した。これまでの本校の取組は体験してきたことを発表して発信力を伸ばすことに重きを置いてきたが、今年度初めて発表会での発信を参加者で意見交換し、まとめて共有する「ファシリテーター」をインターンシップが実施できなかつた生徒に割り当てた。生徒ははじめ何をしたらいいのか戸惑っていたが、数時間かけて養成講座を実施したところ、コツを掴んで楽しそうにファシリテートしている者が半数以上を占めた。

「本気の大人」講演会では、地域の企業人、「本気の大人」との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える態度を養うことができた。この講演会をきっかけに、セルフプロデュース型インターンシップの体験を望んだ生徒や飯南・飯高地域で就職したいと申し出る生徒も何人かおり、今後に繋がる取組であったといえる。

3学期の「いいなんゼミのテーマ設定」では、例年よりも時間をかけ、日常生活の「なんでやろう？」という疑問から自分自身の興味・関心をとらえ、それを元にグループに分かれて教員と複数名の生徒で意見交換やアイデアなどを出し合い、テーマ設定を行った。

以上を踏まえると、年間を通じて例年以上に2年次「キャリアデザイン」の目的は達成できたと考える。ただ、今年度は大きく時期や内容を変更したため、例年との違いを比較・検証するには3年次の活動を含め、もう少し時間が必要だろう。

3 3年次「いいなんゼミ」の取組

(1) 目的

自ら課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につける。学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を考える。

①問題解決能力

主体的に「課題」を設定して計画を立て、問題解決していくことによって、計画性、実践力及び問題解決能力を養う。

②自主性、創造性

自主的、継続的に学習する姿勢と探究的、創造的な態度と能力を身につける。

③学習の深化

各教科・科目で学習した知識・技術を関連させる力を養うとともに学習の深化を図る。

④主体的に生きていく姿勢

課題解決により、達成感、充実感を味わい、自分自身への自信、自身の進路希望へ意欲を高める。

(2) 今年度実施内容

月	取り組み	備考
4月	「いいなんゼミ」ガイダンス 担当教員とテーマ確認 生徒用予定表配布	第1回担当者会議 アンケートの取り方について 図書の利用、著作権について
5月	年間計画書作成	第2回担当者会議（進捗状況報告、 中間発表会について）
7月	ゼミ内中間発表会 1学期研究活動報告書作成 夏休み活動計画書作成	1学期評価（文章評価）
10月	夏休み研究活動報告書作成 年間研究活動計画書の確認・修正	第3回担当者会議（進捗状況報告）
11月	いいなんゼミ報告書作成開始 発表会に向けてPP作成、発表練習	第4回担当者会議（報告書・発表会に ついて）
12月	いいなんゼミ報告書提出 最終ゼミ内発表会 学年発表会	第5回担当者会議（学年発表会選出） 第6回担当者会議（本番発表者選出） 2学期評価（文章評価）
1月	発表代表者PP作成、発表練習 展示・実演・ポスターセッション準備 発表会当日にむけて仕事分担	
2月	いいなんゼミ発表会	3学期評価（文章評価）

(3) 今年度活動内容（テーマ一覧）

①多賀ゼミ

- ・星でみんなを HAPPY に！
- ・ハナノキを知り、地域の魅力を多くの人に伝えたい
- ・テラリウム、アクアテラリウムでコロナ禍の中に安らぎを
- ・地域を好きになった結果～まず自分の地区を知る～
- ・教師になるために
- ・スキマ時間でお小遣いゲット
- ・自作のルアーで魚は釣れるのか！？
- ・飯高駅の他県ナンバーの調査

②坂元ゼミ

- ・木工キット共同製作
- ・飯南高校生徒・青和会 共同木工製作
- ・木工作品
- ・松阪地区青和会との取り組み
- ・ジオラマ作り
- ・エネルギー
- ・ペットボトルで光アート

③山本ゼミ

- ・トライデッキキャッチャーを作ってみた
- ・オムレツを極める
- ・ヘアスタイル&トータルコーディネート
- ・松阪木綿の可能性
- ・犬のぬいぐるみを作る
- ・体内時計
- ・米粉と SDGs
- ・漬物について
- ・ケーキのデコレーションを上達する

④山田大路ゼミ

- ・1年間“目”を描く練習をしたらどれだけ上手くなるの？
- ・おばあちゃんの知恵袋って正しいの？
- ・英検準2級
- ・様々なポーズのキャラクターを描きたい！
- ・アニメーションについて
- ・イラスト
- ・タロットカード
- ・目指せ漫画家への道！

⑤佐藤ゼミ

- ・地震への対策について
- ・土壌 pH について
- ・落ち着く部屋作り
- ・効果的な洗濯方法
- ・猫のおもちゃ作り
- ・自動車模型
- ・自動車の輪郭模型
- ・仕事について

⑥東出ゼミ

- ・現役高校生が本気で小説を書いてみた～ペンを握れば～
- ・ネイルに挑戦
- ・色彩検定
- ・癒しとリラックス
- ・アロマの効果
- ・ヘアアレンジ
- ・スキンケア
- ・最高のファンデーションを作る

⑦瀬川ゼミ

- ・効率の良い勉強方法を考えて～日商簿記2級に挑戦～
- ・何もわからない初心者が独学でピアノ弾いてみた
- ・フラッシュ暗算で暗算力は上がるのか
- ・安価で自助具を作ることに挑戦
- ・ケルトの楽器を演奏できるようになる
- ・歌に挑戦してみた
- ・作曲に挑戦する
- ・スタッキングをしてみた！
- ・ベースをうまくなりたいたい

⑧栗谷ゼミ

- ・糖尿病について
- ・虫歯の出来ない健康な歯にするためには
- ・自宅での介助・介護設備について
- ・介護で使う道具を作ってみよう！！
- ・オリジナル自助具を作る
- ・ニキビの予防と対策
- ・看護学生になるまでに
- ・看護師を目指す前に

⑨五十子・中村ゼミ

- ・三重県立飯南高等学校プロモーションビデオ制作計画
- ・1年間タイピングをしたらどれくらい伸びるのか？
- ・人相学について
- ・タイピング
- ・上級資格の取得とタイピング
- ・腕立て伏せ
- ・スケートボード
- ・クロスバー当て頑張ってみた
- ・ルービックキューブ
- ・速度1級に合格する！
- ・モテたい男の軌跡
- ・リフティングの技に挑戦
- ・新体力テスト

(4) 生徒活動の成果

①青和会×飯南高生

令和2年10月に木材業界の若手経営者で構成される松阪地区青和会の方から「高校生と共同して木工作品を製作し、イベントを開催したい」という依頼を受けた。青和会の活動と企画を生徒に案内したところ5名の生徒が興味を示し、いいなんゼミでの取り組みが始まった。

4月に顔合わせとして交流会を行い、5～7月にかけて何度か企業見学を行った。森製作所では木の加工の様子や製作の工程を学んだ。別の日には叶林業の協力のもと、実際の山に入り、木についての理解を深めていった。杉の木は葉がトゲトゲしているのに対し、檜の葉は柔らかいなどの違いを教えてもらい知識を身に付けた。また、重機を使って木を伐採する仕事を体験し、林業の奥深さや大変さを感じることができた。話し合いの結果、時計、机、椅子の木工工作キットを製作することに決まり、11月に開催される「松阪フェス木バル 2021」に向けて準備を行っていった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でイベントであるフェス木バルが中止となった。このままではせっかく製作した木工工作キット 30 セットが余ってしまうということで、飯南・飯高管内にある4つの小学校に寄贈する運びとなった。生徒5名は青和会のメンバーでフェス木バルの実行委員会会長である斎藤氏と一緒に各小学校を訪問し、寄贈した。

今回の活動を通して、5名の生徒はとても成長したように感じる。高校生が自らの仕事に責任感や使命感を持って取り組む、本気の大人に触れる大切さを改めて実感した。今年は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントに参加することはできなかったが、自分たちで製作した物が誰かの役に立つことを知り、達成感を味わうことができたという感想もあった。今後も青和会×飯南高生を継続できるように取り組んでいきたい。



図1 4月の顔合わせの様子



図2 企業見学の様子



図3 新聞社に取り上げて頂いた記事

②地域おこし協力隊高杉亮氏×飯南高生

自身が中学3年生の頃、進学先を調べる際にもっと簡単に高校について知ることができるものがあればという思いがあった。入学後、飯南高校の魅力にたくさん触れ、ターゲット層を中学3年生に設定し、プロモーションビデオを制作する活動に取り組んだ。連携中である飯南中学校、飯高中学校、自身の出身中学である殿町中学校の3年生にアンケートを実施し、中学生が求めているものを調査した。アンケートの結果「学校の雰囲気が知りたい」と回答した生徒が多く、飯南高校の雰囲気が伝わるプロモーションビデオの制作に至った。自ら計画を立て、アドバイザーとして地域おこし協力隊の高杉亮氏に協力して頂き、ドローンを使って上空からの映像を入れるなど高度な技術を利用したビデオを制作することができた。高校生だけの力では不可能に思えることも「地域を盛り上げたいと考える大人」や「本気の大人」との交流で可能にできることが多くあることを知った。今後もこのような活動

を続けていく必要がある。

③社会福祉協議会×飯南高生

UFOキャッチャーに興味のある生徒が木材等を使い、実際に新型UFOキャッチャーを製作した。本校の介護福祉系列で学ぶ生徒ということもあり、製作したトライデッキキャッチャーを社会福祉協議会の飯南支所を利用する高齢者の方にレクリエーションの一環として体験して頂いた。体験して頂いた利用者の方から「面白かった」や「よく、こんなの作ったね」など嬉しい言葉を頂いた。何度か社会福祉協議会を訪問し、利用者の方が操作しやすいように工夫するなど改良を行い、自身だけでなく相手の立場に立って物事を考えることができる、まさに福祉の精神を実践する形となった。



図4 高杉氏との打ち合わせの様子



図5 社会福祉協議会での実演

(5) 今年度の検証

①いいなんゼミについて

今年度のいいなんゼミにおいても、生徒は多種多様なテーマ・課題に対して研究を行った。将来の進路に直結するものをはじめ、自分の興味・関心について深める内容、飯南・飯高地域の課題について取り組んだ。4月当初はテーマ・課題を設定したものの進め方がわからずに躓くこともあったが、担当教員や外部の専門家のアドバイス等を受けて少しずつ前に進むことができた。中間と最終の2回の発表会を通じて調査・研究の内容も深まり、充実したものとなった。最終的に本番の「いいなんゼミ発表会」に選出された8組は、パワーポイントの手直しや舞台上での発表練習に精力的に取り組み、例年以上に完成度の高い発表会となった。

②報告書について

昨年度からの変更点は2点あった。1つ目は、報告書を必ず1枚に収めると活動内容の濃い生徒の内容も薄くなってしまおうという意見から1枚に限定せず、2枚も可とした。2つ目は、写真の枚数やレイアウトも指定せずに生徒の個性を活かすことのできる仕様とした。新型コロナウイルス感染症の影響で1カ月活動ができない中でも生徒は計画を立て行動し、最終的には満足いく「いいなんゼミ報告書」に仕上がった。

③展示物・ポスターセッション発表会について

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年度と同様、いいなんゼミ発表会と日程をずらして行った。今年度は新しい試みとして、本校の体育館を有効活用し、1, 2年生の生徒、関係者を対象として実施した。例年よりも発表スペースを広々と取ることができ、見学時間を多く取れたことでポスターセッションのメリットである発表者と聴き手の密なコミュニケーションを図ることができた。発表を行った3年生は足を止めてくれた後輩に対して取り組みの説明を行い、質問に答える姿が多く見られた。1・2年生も興味のあるブースに立ち止まり積極的に体験や質問する姿が印象的であった。40名による発表は実演10件、展示物20件を含むものであった。実演についてはタイピングや占い、ゲームなど体験できる内容もあり人気であった。展示についても青和会と共同して製作した机や椅子、ジオラマ、テラリウム、プラネタリウム、建築模型など1年間しっかりと取り組んだ作品が並び来場者を楽しませた。



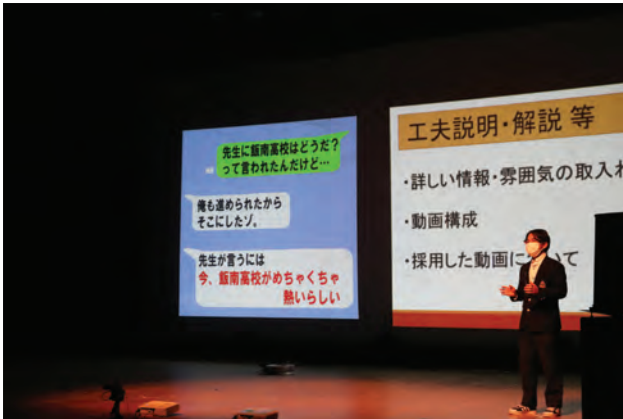
④いいなんゼミ発表会について

今年後も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度と同様、分散会場方式を導入し、リアルタイムでオンライン配信を行った。1, 3年生は飯南産業文化センター、2年生は本校環境総合実習室、連携中学校である飯南中学校・飯高中学校は各中学校、県教育委員会は県庁、その他関係者や保護者などは各地から Zoom で参加した。外部配信するための技術面においても Beacon 様の協力のもと、分散会場からの質疑応答や教育委員会からの挨拶、講評が Zoom で展開されるなど ICT を最大限に活用した取組となった。

いいなんゼミ発表会は「エンターテイメントである」という格言を掲げ、発表者8組が自らの研究を自らの言葉で表現できることを目指した。自己満足の発表で終わらずに聴き手を意識し、楽しんでもらえる発表スタイルを心掛けた。今年度も本校の所在する飯南・飯高地域をテーマにした「今までと“これから”～イベントを開催して～」というタイトルで地域の魅力を発信した双子姉妹の発表、本校の魅力を中学生向けに発信した「飯南高校PV制作計画」、松阪市の伝統工芸品である松阪木綿について考えた「松阪木綿の可能性」など、地域に根ざした研究発表があった。その他にも、ルービックキューブに取り組んだ研究や UFO キャッチャーを木材で製作した研究、卵料理を極めた研究と自身の興味のあるテーマを設定し、より

良いものにするために試行錯誤を繰り返した発表があった。また、聴き手を楽しませるための工夫を凝らした「モテるためのダイエット～モテたい男の軌跡～」や星の研究を行い、プラネタリウム製作や観望会を開催した「星でみんなをHAPPYに」といった発表もあった。このように、生徒自身が興味・関心を持って1年間取り組んだ調査研究の成果を多くの人に見てもらうことができた。前日の準備や当日の運営においても生徒自身が自発的に考え、行動し、ほぼ全ての運営を主体的に取り組み、発表会の成功に大きく貢献することができた。

※いいなんゼミ発表会の様子



(6) まとめ

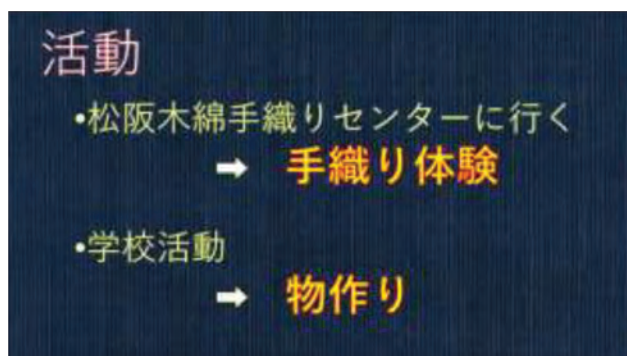
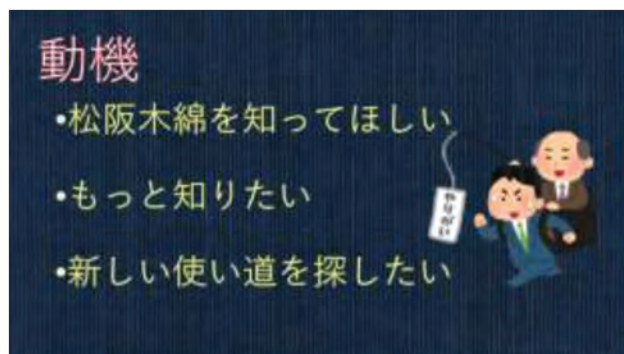
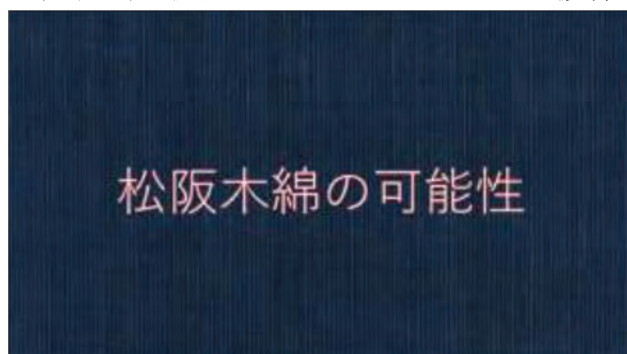
生徒の研究を進めていく上で、地域社会の大人たちの力を借り、伴走者としてマッチングさせることがとても大切であると改めて感じた。本校が所在する飯南・飯高地域には人情味に溢れた環境があり、高校生がお願いすれば快く協力してくれる大人の方がたくさんいることが強みであると考えます。そのような活動に早期から取り組ませ、うまく連携させることで生徒の最大限の力を引き出すことが可能となる。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から外部とのオンライン通信が主流となった今、これまで以上に地域と連携した取り組みができる可能性があると感じる。

(7) 今後の課題

いいなんゼミのテーマ設定が最大の課題であると考えます。本校では2年生の終わりに生徒自身でテーマ設定を行うが例年、悩む生徒が多くいる。自分自身が1年間追究したいこと、興味・関心のあること、1年間継続できることなどテーマの設定は自由であるが、自由であるが故に難しい部分もある。昨年度の課題でもあったが、「疑問の持ち方」や「問いの立て方」へのアプローチを1年次からキャリアの授業だけでなく、教科を横断して行っていく必要があると考えます。

地域探究においても、1年次「産業社会と人間」、2年次「キャリアデザイン」の取り組みで地域の魅力や地域で協働してくれる大人の存在などのたくさんの情報を生徒に落とし込んでおくことで3年次「いいなんゼミ」の活動が円滑に進むと考え、今後も継続して行っていく必要性がある。

※発表会で使用したパワーポイントの抜粋





分かったこと

- 1つでも間違えると美しくならない
- 集中力がある
- 手首足首が痛くなった
- 難しい



可能性

結論

「松阪木綿をリサイクル」

木綿センターの田中さんに相談

田中さんの意見

- 松阪木綿を進化させたい
- 若者に興味を持ってもらいたい
- 古い木綿と新しい木綿を組み合わせる新しい模様を作れる
- 私も再利用を試してみたい

お手玉

•松阪木綿 (10cm×16cm)

•裁縫セット

•小豆 (1個60g)



帽子



型取り



ミシンで縫う



完成



感想

- 松阪木綿を織るのが大変
- 知らないことを多く知れた
- 物を作るのが大変
- 松阪木綿を研究楽しかった